

一人一人の子どもも理解 …… 子どもの特性を読み解こう

教室の子どもは、

- 感覚はそれぞれ …… みんなが同じように感じるわけではない
視覚（見え方に特性のある子）聴覚（聴くことが苦手な子）触覚（皮膚感覚が過敏な子）
- 情報処理もそれぞれ …… 一つのできごとをみんなが同じように理解し判断するわけではない

必ずしも、「なまけている」「ふざけている」わけじゃない！

反省を促し、本人の自覚を高める指導では、改善が難しいことはありませんか。

「状態の仮説（～かもしれない）」を考え、「方法の仮説（～という方法はどうか）」をもとに支援してみましょう。そして、うまくいかない場合は、もう一度状態の仮説に立ち戻りましょう。

・例えば、授業中じっと座っていることができない子

なぜ、座っていないのだろう
どんな思いで立ち歩くのだろう
何に困って、立ち歩くのだろう

⇒

～かもしれない
（状態の仮説）



どうしたら、立ち歩かなくてすむだろう

⇒

～という方法はどうか
（方法の仮説）

- 「板書を写そうとしない子」 → 板書の内容を記憶するのが苦手？
⇒ 板書の文字数を少なくする 聞く時間と書く時間を分ける
- 「読むことが苦手な子」 → 文字の見え方に特性？
⇒ 1行ずつ目に留まるような工夫をする
- 「座っている姿勢が悪い子」 → 筋肉や関節の調整が困難？
⇒ 背中で手を組む姿勢をとらせ、姿勢の崩れを自覚させる
- 「授業妨害する子」 → 注目を引きたい？
⇒ みんなの前で、誉める場面を増やす
- 「当番活動をしようとしていない子」 → 何をどうやったらよいかわからない？
⇒ 仕事の手順表を示す 簡単な作業から取り組ませる
- 「ぼんやりしがちの子」 → 指示が理解できない？
⇒ まめに声をかける 質問は、答えを限定できるものに（例：いつ、何、どこ）

